

米山寺経塚出土品「青銅製経筒・陶製外筒」

(べいさんじきょうづかしゅつどひん「せいどうせいきょうづつ・とうせいがいとう」)



作者	—
年代	承安元年(1171)
材質形状	青銅製・陶製
大きさ(cm)	陶製外筒：25.4（高さ）
指定	須賀川市指定文化財
その他	重要文化財

平安時代末期、仏教が忘れ去られ乱れた世の中になるという「末法思想」が広まりました。これを恐れた当時の人々は、弥勒菩薩がこの世に現れて世の中を救うという 56 億 7000 万年後まで経典を保存するため、経典を経筒に納め、さらにその経筒を外筒に入れて地中に埋めました。これが「経塚」です。

須賀川市西川地区の日枝神社境内近くにある米山寺経塚群は、十基以上からなる大規模な経塚群で、明治時代から発掘が行われました。このうち 3 号経塚では青銅製の経筒と、陶製の外筒が出土しました。この外筒には承安元年（1171）の銘と「藤原貞清」をはじめ 4 人の施主の名前が刻まれています。この経筒と同じ年号と同じ施主が刻まれた外筒が、桑折町の平澤寺経塚と福島市の天王寺経塚でも見つかっていて、その関連性が注目されています。

また、この経塚の南側に米山寺があったとされていて、区画整理事業に伴う発掘調査の結果、9 世紀を中心とする建物跡が確認され、在地豪族の氏寺的な性格が考えられています。

・刊行物

「須賀川のたからもの - 須賀川市立博物館名品集 - 」 2019.3 45P